

学 年	教科等	題材名	日 時
第 6 学年	家庭科	世界に 1 つだけのマイバッグ	令和 6 年 10 月 18 日 (金)

1 本時の目標

自分たちで試しに作った布袋を基に、仲間と対話をしながら製作に必要な手順を理解することができる。

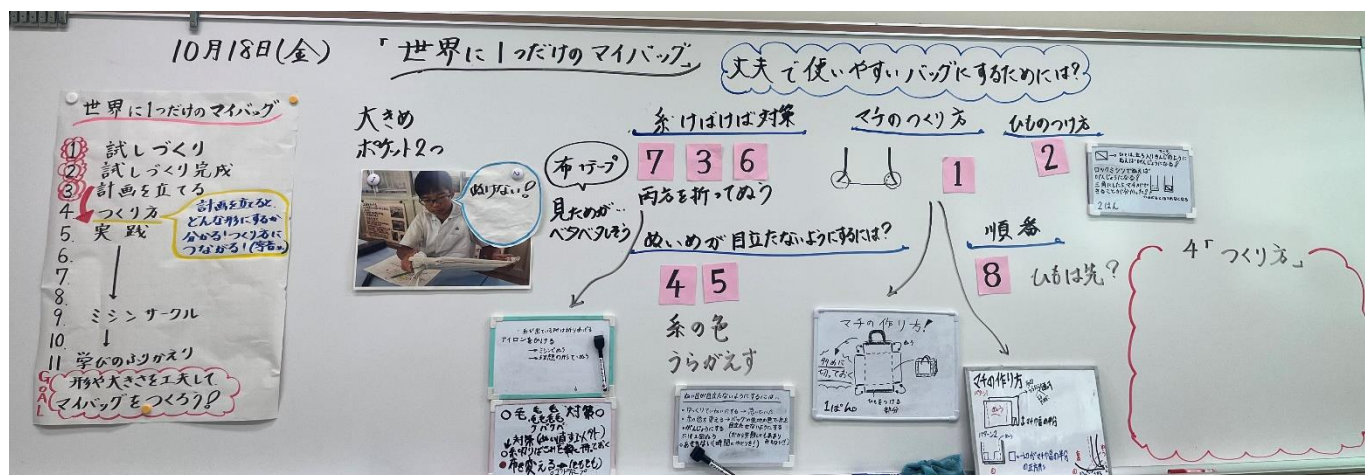
2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1 困っていることを共有し、本時の学習問題を設定する。 ○ 困っていること ・「サイズを測ったのに、ぴったりすぎて物が入らなくて困っている。」 ・「マチを作りたいかったのに、上手くできなかった。どうしたら、マチができるのかな。」 等 ○ 本時の学習問題 見た目が美しく、丈夫で使いやすいバッグを作るためにはどうすればよいのだろう。 2 グループに合った課題を決定し、解決するための方法を考える。 ○ グループに合った課題 ・「僕たちのグループは、マチを作るための方法について考えよう。」 ・「私たちの班は、丈夫な紐の付け方について考えよう。」 等 ○ 解決するための方法 ・仲間との話し合い ・調べ活動 ・実物の観察 等 3 課題を解決する。 ○ 課題の解決 4 分かったことや、悩んでいることを共有し、製作に必要な手順の確認をする。（★） ○ 分かったこと ・「マチを作るためには、底の角を三角に引き出して縫うとできることが分かったよ。」 ○ 悩んでいること ・「美しくするために、裏側を縫って表に返すことは分かったけど、裏から見ても美しくする必要があるのかな。」 5 本時のふりかえりを行う。 ○ 本時のふりかえり ・「私は、丈夫な紐の付け方について解決しました。横だけではなく、四角を作るようにして縫っていくことでより丈夫になることが分かりました。」	○ 試しに作った布袋を基に、各グループの困っていることや上手くいかなかったことについて全体で共有することで、本時の学習問題につなげることができるようにする。 ○ 子どもが困っていることを発表した際に、その理由を問うことで、「美しさ」「丈夫さ」「使いやすさ」等の布袋を製作するために必要な視点を引き出すことができるようにする。 ○ 試し作りの際に上手くいかなかったことや、もっと知りたいと思ったこと等、各グループに合った課題を決定させることで、子どもが必要感をもちながら活動に取り組むことができるようにする。 ○ 様々な布袋、作り方の資料、布等を掲示したり置いたりしておくことで、子どもが必要だと感じた際に、実際に手にとって仲間と対話をしながら課題を解決することができるようにする。 ○ 悩んでいることについて共有し、その手順が必要かどうかなどについて話し合わせることで、「丈夫にするため」「長く使えるようにするため」等、手順の意味を確認することができるようにする。 ○ 事前に立てていた計画書に、自分にとって必要だと思った手順を記入させることで、自分の理想のバッグに向けた手順を明確にすることができるようにする。 ○ ふりかえりのなかで、仲間との話し合いによって考えが広がったと書いている子を意図的に指名することで、仲間との対話（学び方）のよさを実感することができるようにする。

3 本時の評価規準

自分たちで試しに作った布袋を基に、仲間と対話しながら、マチを作るための方法や丈夫にするための方法等の製作に必要な手順を理解している。
（知識・技能）【行動分析・記述分析】

4 板書 等



5 指導講評

宮崎大学 伊波 富久美 教授

- 子どもから、様々な問いや課題は出ていたが、学びの深まりは見られなかった。家庭科は、それぞれの課題をそれぞれが解決していくと、学びが広く浅く終わってしまう。狭く深く課題解決に向かう必要がある。例えば、バッグを作るための縫う順番について、「どのような順番で縫うと、紐が付けやすいのか」「どのような順番で縫うと、縫い目が見えなくなるのか」ということについて学級全体で考えていくなかで、「こっちの方がいいのでは。」等の、子ども同士の対話が生まれる。そうすることで、学びの深まりが見られるのではないかな。
- 研究テーマにもある「豊かさ」は、仲間と対話をする中で、「わたしはこのような生活をしたい」ということが具体的に見えてきたときに、豊かだと感じるができるのではないかと考える。例えば、本時でいうと「初めはバッグを選ぶときに何も考えることがない」と思っていた子どもが、課題を解決したことによって、「丈夫に作りたいから、紐を強くしたい。だから自分はこんなふうに縫いたい。」等の思いが生まれたことが、「豊か」なのではないかと考える。

宮崎県教育研修センター 竹野 弥生 指導主事

- ミシンに慣れていない子どもがいて、危ない場面があった。怪我をしないように、安全面を考慮することが大切である。解決策の1つに、学校安全に関する資料がある。家庭科だけではなく、他の教科等での怪我や事故の対処法も載っているため確認しておくといよい。
- 布袋ができあがるまでの手順は何通りもある。授業のなかでA児が「袋部分を作ってから紐を縫ったから、袋部分が開かなくなったよ。」と発言していた。1通りの製作手順ではなくてよい題材だからこそ、製作手順を考えることで、子どもの発想力を育むことができるのではないかな。

6 考察

- 題材のはじめに布袋の試し作りをさせたことで、各グループの上手いかなかったことが基となり、「丈夫で、使いやすいバッグを作りたい」という思いをもつことができた。子どもは、個人で考えた理想のバッグに向けて課題意識をもっていたが、本時ではグループ（4人）で1つの課題解決をさせてしまったため、子どもの課題意識からそれてしまったところがあった。自分に合った課題を設定するための手立てについて今後も追究していきたい。
- 本時では「マチの付け方」「紐の付け方」「布のしまつの仕方」等の、各グループが課題を解決した後に、悩んでいることについて共有した。しかし、各グループが異なる課題の解決に取り組んでいたため、悩み事を共有することはできても、手順の意味を話し合うことまでには至らなかった。そのため、全員で製作手順について解決していくことで、布袋を作る手順は複数あることに気付くことができるのではないかと考える。製作手順は複数あると気付いた子どもは、「自分はバッグをこう使いたいから、この手順がよい」等と、対話をするなかで、自分にとっての手順の意味が見えてくるのではないかと考えた。